

今年度は、学びの変革推進プラン施策1「『学びの変革』によって資質・能力を確実に育成する」を受けまして、県の課題である「学力調査の分析結果の指導計画への十分な反映」の解決に向けて、各種研修支援を行ってまいりました。併せて、各校の授業の充実・改善PDCAサイクル確立の推進と、各種調査結果の活用状況の調査も行ってまいりました。自校の取組調査結果と比較しながらご覧いただき、次年度の学校経営や校内研修計画立案に生かしていただきたいと思います。

1 調査結果より

4：あてはまる 3：ほぼあてはまる 2：あまりあてはまらない 1：全くあてはまらない 目標値：3.5 変化プラス

番号	項目	調査内容 ※太字：重点事項	小学校			中学校		
			10月	2月	変化	10月	2月	変化
1	学校としての学習指導の方向性の確認	授業改善の視点や授業周辺部の取組(家庭学習の方法等)について、共通理解を図る場を設定し、実施している。	3.6	3.7	0.1	3.4	3.6	0.2
2	全国学力・学習状況調査	全国学力・学習状況調査の問題を解いたり、自校採点したりすることを通して、育みたい資質・能力を理解している。	3.5	3.5	-	3.1	3.2	0.1
3	全国学力・学習状況調査	全国学力・学習状況調査結果から、児童生徒の課題や学習状況等を把握している。	3.5	3.5	-	3.6	3.6	-
4	全国学力・学習状況調査	全国学力・学習状況調査結果の分析を受けて、自校の課題解決に向けた学習指導の充実・改善に取り組んでいる。(年間指導計画や日課表、週月案、学習指導案等への適切な反映、校内研修計画の修正・改善・検証等)	3.3	3.4	0.1	3.2	3.4	0.2
5	ふくしま学力調査	ふくしま学力調査結果から、児童生徒一人一人の学力の伸びを把握している。(分析ツールを活用する等して)	3.2	3.4	0.2	3.1	3.1	-
6	ふくしま学力調査	ふくしま学力調査結果から、非認知能力や学習方略等の実態を分析し、把握している。	2.9	3.4	0.5	2.9	3.2	0.3
7	ふくしま学力調査	ふくしま学力調査結果から、伸びの見られた学年・学級・児童生徒等の要因や効果的な取組を職員間で共有している。	2.9	3.1	0.2	2.8	3.1	0.3
8	エビデンスに基づく授業改善	各種調査結果分析・検証の結果について、学校全体で共有し、調査実施学年以外の学年や調査実施教科以外の教科等においても校内研修に取り組む等して充実・改善を行っている。	3.3	3.4	0.1	3.1	3.3	0.2
9	主体的・対話的で深い学びの視点での授業充実・改善	学習指導要領に基づいて目標や指導内容を資質・能力の3つの柱で捉え、単元(題材)及び本時のねらいを設定し授業を構想することが共有されている。	3.3	3.4	0.1	3.2	3.5	0.3
10	主体的・対話的で深い学びの視点での授業充実・改善	ふくしまの「授業スタンダード」に基づき、主体的・対話的で深い学びの視点を取り入れた授業の工夫・改善に努めている。	3.5	3.6	0.1	3.3	3.6	0.3
11	資質・能力の育成を支える基盤づくり	教科等の目標や内容を見通し、言語能力、情報活用能力(情報モラルを含む)、問題発見・解決能力等求められる資質・能力の育成のために、教科等横断的な学習を充実している。	3.0	3.3	0.3	2.9	3.0	0.1
12	資質・能力の育成を支える基盤づくり	幼・小・中・高の学びの円滑な接続を意識した取組(架け橋期カリキュラムの作成・実施・改善、異なる校種間での対話の機会等)を行っている。	3.4	3.5	0.1	2.9	3.3	0.4
13	資質・能力の育成を支える基盤づくり	自己マネジメント力の育成に向け、基本的な生活習慣や家庭学習習慣の確立や充実のための取組を行っている。(ふくしまの家庭学習スタンダードを指針とする等)	3.4	3.5	0.1	3.1	3.3	0.2
14	資質・能力の育成を支える基盤づくり	ふくしま活用力育成シートや全国学力・学習状況調査問題(授業アイデア例や『一発検索くん』)を、授業や校内研修において活用できるよう環境整備をしている。	3.1	3.4	0.3	2.9	3.1	0.2
15	カリキュラム・マネジメントの確立に向けて	上記の取組を検証し、次年度のグランドデザインや現職教育(校内研修)計画等に適切に反映させている。(2月に調査)		3.6			3.4	

◎ ほとんどの質問で小・中学校ともに評価が向上しました。特に、「ふくしま学力調査結果分析やその共有」に関わる評価が大きく向上しました。一人一人の学力の伸びを捉える調査の理解と活用が進んだと受け止めます。

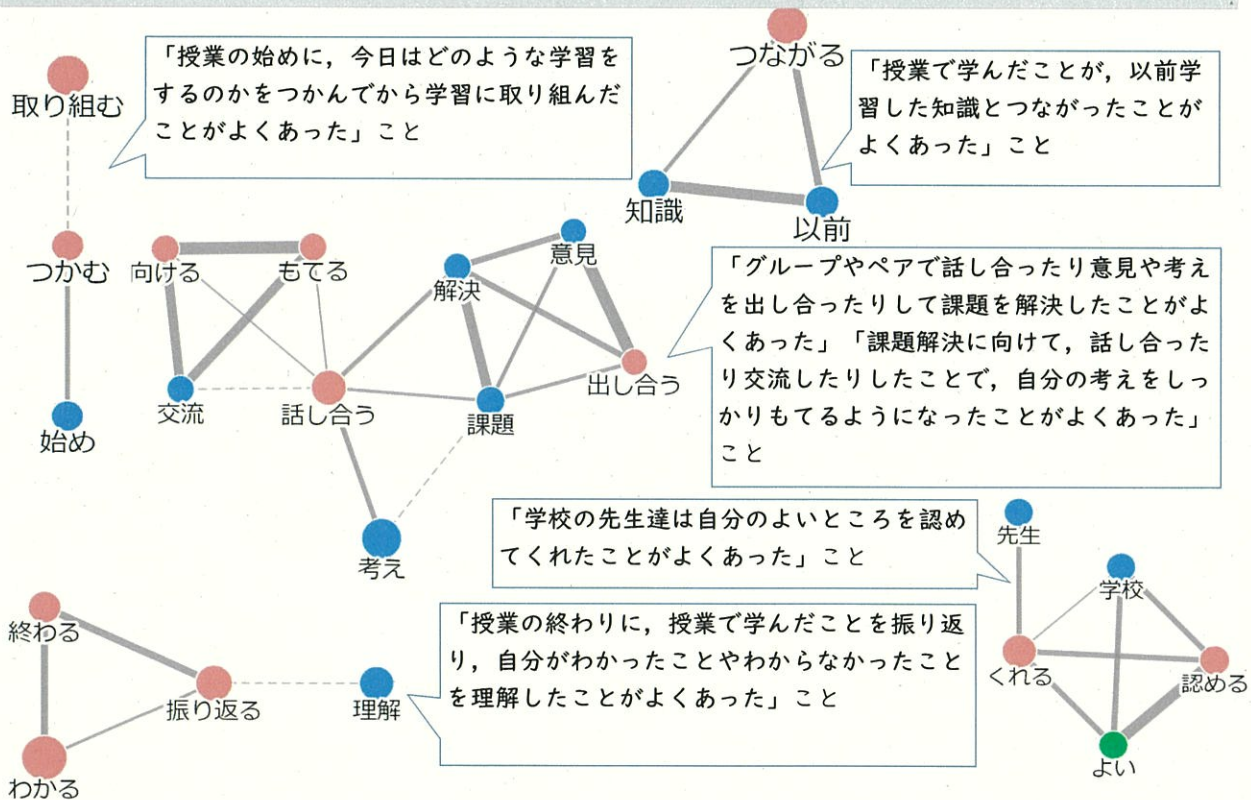
他に小学校では、「(11)教科等横断的な学習の充実」「(14)活用力育成シート等の活用のための環境整備」、中学校では、「(9・10)主体的・対話的で深い学びの視点での授業づくり」「(12)学びの円滑な接続を意識した取組」の評価が大きく向上しました。多面的・多角的に児童生徒の実態を把握し、その結果を学習環境や学習指導の改善にいかす取組が多くで学校で確立されたと受け止めます。引き続き先生方の豊かな経験や知識による見取りと、客観的なデータ分析に基づき、児童生徒の「学力の伸び」と「学校の取組の成果」の関係を適切に検証することで、実効ある学習指導を進め、児童生徒一人一人の資質・能力を育成する教育を推進していきましょう。



これは、「質問6について：『ふくしま学力調査分析支援プログラム』を活用して、自校の児童生徒の学力の伸びと相関のあった項目を教えてください」に対する各学校の記述を、テキストマイニングを使って整理したものです。特に多かったのは、「主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に関すること」です。また、「他の児童生徒及び教師から認められる等の自己肯定感」と学力の伸びにも相関がみられました。さらにその言葉のつながりを見てみると、以下のような先生方の働きかけと学力の伸びが関係していることが見えてきました。県南の先生方が日々試行錯誤しながらも、児童生徒一人一人を丁寧に見取り関わっていることが確実に伸びにつながっていること、それがデータにも表れていることがわかりました。

【県南域内において「学力の伸び」と相関関係の見られた働きかけ】

- 授業の始めに、今日どのような学習をするのかをつかんでから学習に取り組んだことがよくあった
- グループやペアで話し合ったり意見や考えを出し合ったりして課題を解決したことがよくあった
- 課題解決に向けて、話し合ったり交流したりしたことで、自分の考えをしっかりともてるようになったことがよくあった
- 授業の終わりに、授業で学んだことを振り返り、自分がわかったことやわからなかったことを理解したことがよくあった
- 授業で学んだことが、以前学習した知識とつながったことがよくあった
- 学校の先生達は自分のよいところを認めてくれたことがよくあった



◎ 12月に開催した学力向上担当者等研修会で、今年度初導入であった「分析支援プログラム」を演習・活用しました。学校の規模によっては、相関のあった項目を見出すことができないこともありました。一方で、ある小規模校では、「グラフ化ツール」を用いた伸びの様子やそれに至った効果的な指導を見出して記述・提出していただきました。学校規模や立場（担任，研修主任，教務主任等）によって「分析支援プログラム」と「グラフ化ツール」を使い分けて、児童生徒の実態把握と、取組の成果の実感と検証，組織的な取組に生かしていただきたいと思います。

◎ 学力向上に向けた取組についても、「全職員で全国学調の問題分析や結果分析を行って改善のポイントを話し合っ、校内研修に取り組んできました」「今回の分析支援プログラムの分析結果を先生方と共有しました」等、各種調査結果分析を組織的な取組（PDCAサイクル）に生かして、「授業を中心」とした学習指導の充実・改善が進んでいることのがえる記述をたくさんいただきました。調査へのご理解とご協力にあらためて感謝申し上げます。